

シンポジウム② 6月19日 14:00~15:30

「治未病」の過去・現在・そしてこれから

東明堂石原鍼灸院 院長 石原 克己

「治未病」の考え方は、伝統医学の中で非常に重要な分野であると共に、命の本質につながるものである。しかし、今迄鍼灸学会で取り上げられることがほとんどなかった。

「治未病」の考え方は、

視点1として、『孫子の兵法』第三篇謀攻での「是の故に百戦百勝は、善の善なる者に非ざるなり。戦わずして人の兵を屈するは、善の善なるものなり。」や、『素問』四気調神大論篇での「是の故に聖人は已病を治すに非ずして未病を治す。已乱を治めるに非ずして未乱を治めるとは、此れをこれ謂うなり。夫れ病已に成りて後、これに薬し、乱已に成りて後にこれを治めるは、譬うれば、猶渴して井を穿ち、鬪して錐を鑄るが如し、亦晩からずや」で述べている病気の予防・養生法。

視点2として、『素問』八正神明論篇での「上工はその萌芽を救う。必ずまず三部九候の気をみて、尽く敗れざるを調べてこれを救う」、『素問』刺熱論篇での「肝の熱病なる者は、左の頬先ず赤らむ…。腎の熱病なる者は頤先ず赤らむ…。病未だ発せざると雖も、赤色見わす者はこれを刺す。名づけて未病を治すという」で述べている病気の初期治療。

視点3として、『難経』七十七難や『金匱要略』臟腑経絡先後病脈証第1-2条の「上工は未病を治し、中工は已病を治すとは何の謂ぞや。然り、いわゆる未病を治すとは、肝の病を見て則ち、肝当にこれを脾に伝うべきことを知る。故に先ず其の脾の気を実して、肝の邪を受くることを得せしむことなし。故に未病を治すと曰う。」で述べている病の伝変防止。

視点4として、様々な健康法・民間療法、戦前の有名な漢方医・森道伯の提唱した一貫堂医学の三大分類（解毒証体質、瘀血証体質、臟毒証体質）に、系統だてて述べられている体質改善。

以上4視点の総称であり、其れに基づく方法には、各種養生法、鍼灸、按摩、漢方等色々ある。

今回は、鍼灸の中でいかに捉え、実践しているのか、歴史的考証及び中国の「治未病」政策も踏まえつつ検討したい。さらに、現実に行われている「治未病」の考え方と鍼灸による実践状況を紹介し、将来の鍼灸の可能性を考えたい。

## 【内 容】

1. 「治未病(未病を治す)」とは(病と健康も含めて)

2. 「治未病(未病を治す)」の史的側面 (日本・中国…)
3. 「治未病(未病を治す)」の現在の実践状況 (1) 鍼灸治療 (2) 生活指導 (3) その他
4. 道・命の世界及び中国の「治未病(未病を治す)」政策
5. 「治未病(未病を治す)」の今後への提言

<座長>

■石原 克己 (いしはら かつみ)



九鍼を使った鍼灸、漢方、ハンドヒーリング及び心の解放のためのアプローチ、健康法などを通じて、良き診断と治療、未病治療、癒し、自己の本質への気づきを促しています。

略歴

1950年 千葉県生まれ

1974年 東京理科大学薬学部卒業

1975年 東洋鍼灸専門学校Ⅱ部卒業

1975年 仁仙洞医院勤務 (漢方、鍼灸担当)

1976年 東洋鍼灸治療院 開業

1979年 (有)東明堂石原鍼灸院・漢方薬局 開業、現在に至る

所属・肩書き

(有)東明堂石原鍼灸院・漢方薬局 代表取締役、日本伝統鍼灸学会 学術部長

日本刺絡学会 副会長、東京九鍼研究会 代表、東洋鍼灸専門学校 講師

東京衛生学園専門学校及び専攻科 講師

著書

「気・血・水」／たにぐち書店、「伝統医学のこれから」／たにぐち書店

DVD

「九鍼妙技～古代の智恵を現代の鍼灸臨床に生かす～」／ヒューマンワールド